

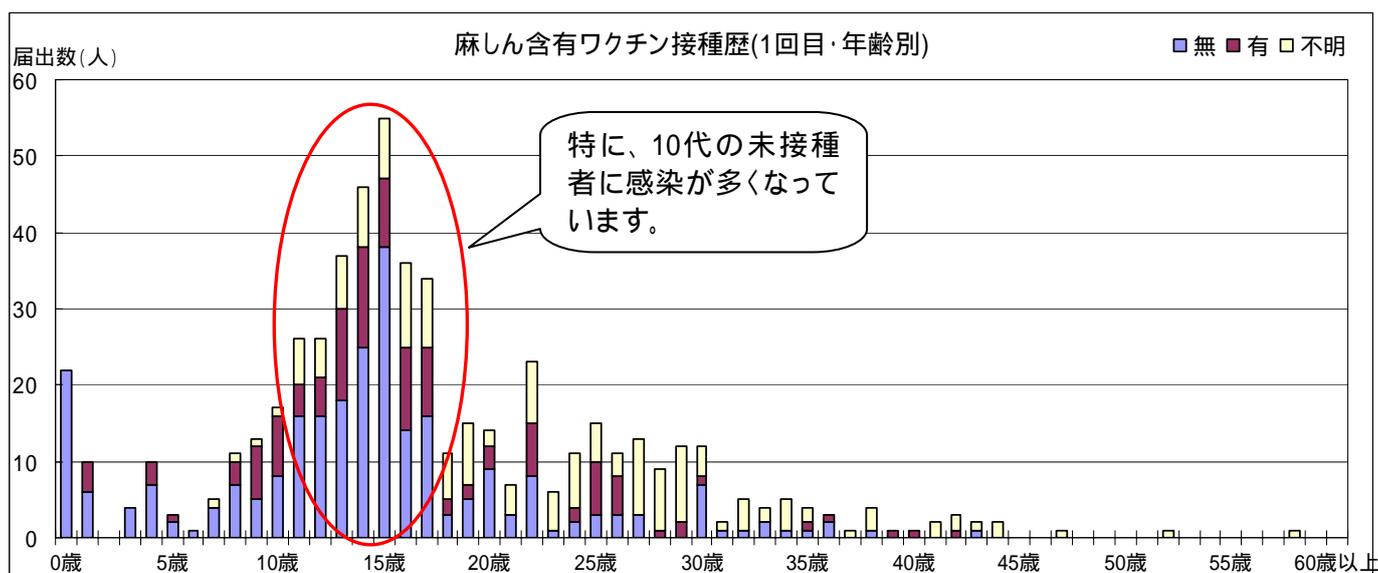
## 麻疹(はしか)の流行について(4)

2008年1月からの横浜市内の麻疹報告者数は、すでに500人を超えており、約半数が予防接種を受けていません。

横浜市では、未接種者への無料接種を開始します。

予防接種が済んでいない方は、新学期が始まる前に、早めに接種しましょう！

横浜市における年齢別患者報告数および予防接種歴(3月12日届出分まで)



横浜市内の区別患者数等の詳細は、こちらをご覧ください。

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/2008nen/measles-sokuhou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles-sokuhou.pdf)

### < ワクチン接種について >

定期接種対象年齢は、第1期: 生後12～24か月未満、第2期: 小学校入学前年の4/1～3/31です。

4月からの小学校入学に備え、第2期の接種を確認し、忘れずに受けましょう！

また、4月より5年間、中1及び高3相当の年齢への定期接種が実施される予定です。

2012年「麻疹排除」に向けて、小・中・高等学校世代が全て、2回の接種を完了する事を目指します。

横浜市では、緊急対策として、未接種・未り患者への市費による予防接種(任意接種)を実施します！

1歳～高校3年生相当で、麻疹の予防接種を受けていない方、麻疹にかかっていない方は、春休みのうちに接種を受け、新学期に備えましょう！

[麻疹\(はしか\)流行に伴う横浜市の緊急対策について](#)

### < 要注意 >

横浜市では、麻疹が流行しています。

麻疹にかかったことがなければ、発熱時は、麻疹の可能性も考えましょう。

まず、発熱、咳、鼻汁、結膜充血などの症状が出ます。発疹は、一度下降した熱が再び上がる時に出現します。

登校、外出は避けましょう。特に、乳児と接触しないでください。

医療機関には、まず電話で相談してから、受診しましょう。

症状の出る1～2日前から、感染性があります。麻疹と診断されたら、学校等にすぐに連絡しましょう。

2008年1月1日から、麻しんは感染症法の5類感染症の全数把握疾患になり、診断した医師すべてに届出が義務づけられました。

全国および横浜市近隣の麻しん患者届出数

3月12日現在

	第1週 (1/1-1/6)	第2週 (1/7-1/13)	第3週 (1/14-1/20)	第4週 (1/21-1/27)	第5週 (1/28-2/3)	第6週 (2/4-2/10)	第7週 (2/11-2/17)	第8週 (2/18-2/24)	第9週 (2/25-3/2)	第10週 (3/3-3/9)	計 (1/1-3/9)
全国	87	155	245	268	527	457	556	468	500	392	3655
東京都	11	16	26	23	46	43	61	76	84	53	439
神奈川県	40	60	95	106	179	174	230	160	202	137	1383
横浜市(再掲)	17	20	38	37	54	64	92	58	74	68	522
川崎市(再掲)	1	7	2	9	7	8	7	2	10	5	58
県域(再掲)	22	33	55	60	118	102	131	100	118	67	806
横須賀市(再掲)	14	22	40	46	65	62	83	50	55	34	471

### < 医療機関の方へ >

麻しんを診断した場合は、なるべく24時間以内に、最寄りの福祉保健センターに届出をお願いいたします。

[届出基準](#) [届出様式](#) [麻しん発生連絡票](#)(\*)

\* 横浜市では、発生届と合わせて「麻しん発生連絡票」のご記入をお願いしております。

[医師による麻しん届出ガイドライン](#) (国立感染症研究所感染症情報センター)

[医療機関での麻疹対応ガイドライン](#) (国立感染症研究所感染症情報センター)

### < 医療機関を受診する時 >

**必ず事前に電話で以下の事項を伝えて、受診の仕方(時間の指定、待合室の指定など)を確認しましょう。**

1. 学校、職場、家族等で麻しんの患者が出ている場合は、その詳細
2. ご自分の症状と、予防接種歴

何も連絡せずに受診し、黙って、待合室で他の患者さんと一緒に待つ事がないようにしてください。

### < 麻しんについて >

麻しんは、空気感染、飛沫感染、接触感染と様々な感染経路を示すウイルス感染症で、**感染力が極めて強力**で、同じ空間を共有することでも感染する場合があります。

免疫のない人が感染すると、ほぼ100%発病します。

肺炎、脳炎\*、中耳炎、腸炎等の合併症発症率、入院率が高く、死亡例もあります。

潜伏期は10～12日で、**発熱、咳、鼻水、目の症状、発疹のいずれかが出現する前日から解熱後3日を経過するまで、周囲に感染する可能性があります。** 特異的な治療法はありません。

**唯一の予防方法は、ワクチン接種です！**

\* 横浜市では、2007年、麻しんによる急性脳炎の届出が1例ありました。

今年もすでに脳炎症状を呈した麻しん患者が1例報告されています。

### < 参考資料 >

- ・ 麻疹(はしか)について

([http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection\\_inf/measle1.htm](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/measle1.htm))

- ・ 麻しんの排除に向けて(横浜市衛生研究所検査情報月報12月号)

([http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection\\_inf/200712/measles-haijo.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/200712/measles-haijo.pdf))

- ・ 麻しん情報(横浜市衛生研究所検査情報月報2月号)

([http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection\\_inf/200802/measles.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/200802/measles.pdf))

- ・ 2012年麻疹排除に向けて(国立感染症研究所)

(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)

学校等における対応等各種ガイドライン等が載っています。

**15分間のわかりやすいビデオも見ることができます！**